

# 家庭基礎との横断的な学習による総合的な学習の時間

## －長崎市における地域景観の構造と住環境－

佐々野 好 継\*

### Comprehensive learning period by crossing domestic science － Structure of landscape in Nagasaki city －

Yoshitsugu SASANO

#### 1 はじめに

本研究は、高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編における「各学校において定める内容の設定」の中の3つの学習課題の一つである「生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題」の中に示されている「**歴史的な景観**と利便性が調和した都市計画」に関する具体的な地域課題を設定し、それに対応した実践的学習指導の基本的な枠組みを示すことである。

なお、目標に示す横断的な学習については、その基本的な枠組みを高等学校における家庭基礎の内容2)生活の自立及び消費と環境のウ住居と**住環境**を主対象としている。

#### 2. 長崎市における地域景観の構造

##### 2. 1 目的と背景

これまでの近代社会における都市計画は、ある一つのテーマに基づいて都市を物的に整備することに主眼があり、そのバックグラウンドとしての**景観**との調和についてはあまり意識されずに開発されてきた。

このことが、地域のアイデンティティや環境の面から問題であることはすでに指摘されている。

本稿は、その視点からの長崎市における**地域景観**の構造を明らかにする。

##### 2. 2 研究の方法

(1) 都市景観の構造を明らかにする上で、景観の主要な構成要素としての山、川、海に着目し、分析する。

(2) 都市計画の軸線の考え方を適用し、交差2軸による4領域と長崎市の地域特性との検討を行う。

#### 3. 長崎市における地域景観の空間構造

##### 3. 1 目的と方法

長崎市における地域景観の構造を明らかにするために、地図の上に景観の構成要素であ

る山、川、海をプロットし「山と海の空間軸」、「山と山の空間軸」の視点を導入し、長崎市の特徴的な空間構造を明らかにする。

### 3. 2 分析結果

(1) 金毘羅山と長崎湾を結ぶ「山と海の空間軸」が存在している。(2) 稲佐山と愛宕山を結ぶ「山と山の空間軸」が存在している。(3) 「山と海の空間軸」、「山と山の空間軸」の2軸は長崎港で交差している。(4) また、この4領域の中には、川の川上と川下の「上と下の空間軸」が存在している。

## 4. 長崎市における4領域と地域特性

### 4. 1 目的と方法

長崎市における交差2軸の4領域に地域特性があるのかについて歴史的視点からの検討を行う。なお、北東エリアを「中島川・寺町エリア」、北西エリアを「浦上山里村エリア」、南西エリアを「三菱開港エリア」、南東エリアを「グラバー・唐人エリア」と仮に呼ぶことにする。

### 4. 2 中島川・寺町エリア

長崎港からの北東エリアに肥前国彼杵群長崎村があった。また、このエリアの中の中島川は水運の川であった。

### 4. 3 浦上山里エリア

浦上は長崎原爆の被爆・受難の地であり、日本二十六聖人の殉教の地でもある。また、浦上天主堂の敷地は旧浦上山里村の庄屋跡に建築されている。

### 4. 4 三菱開港エリア

ポルトガル船が平戸、横瀬浦、福田浦、口ノ津を経て長崎港に落ち着くのが1570年である。このエリアにはまた、長崎造船所（三菱重工）がある。

### 4. 4 グラバー・唐人エリア

日米修好通商条約による外国人居留地の一つが長崎にあり、近代都市計画が実施されたエリアである。また、唐人屋敷がある。

### 4. 5 まとめ

長崎4エリアは、地域景観の構造の視点から、地域特性があることが明らかになった。

## 5. 結論

(1) 長崎市における地域景観は、「山と海の空間軸」、「山と山の空間軸」の交差2軸と、その4領域における川の「上と下」の空間軸を構造原理にしている。

(2) これからの長崎市における都市計画は、背景としての「山」「川」「海」の景観構造を生かした都市計画の視点が重要である。特に、長崎市の場合、「坂（パス）」と川（エッジ）および橋（ノード）のシステムを明らかにし、都市計画に生かすことが大切な視点である。また、金毘羅山は、長崎市のランドマークとして位置付けられる。

(3) 交差2軸によって成立する4領域は、特色ある住環境で構成されていることが明らかになった。

特に、長崎都市の奥である「鳴滝」再生は、これからの地域計画および地域活性化の視点から重要である。

## 6. 今後の課題

今回は、この基本的な枠組みを総合的な学習の時間の指導案に転記するのが今後の課題である。

### 参考文献

文部科学省：高等学校指導要領解説 総合的な学習の時間編 海文堂出版 平成21年4月  
佐々野好継：長崎市における地域景観の構造 日本建築学会 都市計画委員会 都市形成・計画史小委員会 2005年

佐々野好継：生活科および総合的な学習の時間と家庭科における住居領域との対応構造－生活科からはじめる住居の空間学習－ 日本生活科・総合的学習教育学会 第24回全国大会 福岡2015

